

広島港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成 16 年 3 月

広島港港湾管理者

目 次

I. 変更理由	1
II. 港湾施設の規模及び配置に関する資料	2
1. ふ頭計画	2
1-1. 公共ふ頭計画	2
2. 小型船だまり計画	9
III. 港湾の環境の整備及び保全に関する資料	12
1. 港湾環境整備施設計画	12
1-1. 緑地計画	12
IV. 土地造成及び土地利用計画に関する資料	15
1. 土地造成に係らない土地利用計画	15
V. その他の資料	16
1. 資金計画	16
2. 環境保全に関する検討	17
3. 地方港湾審議会名簿	18
4. 新旧法線対照図	19

I. 変更理由

- (1) 大型旅客船の寄港回数の増大に対応するため、宇品地区において、公共ふ頭計画、土地造成及び土地利用計画を変更する。
- (2) 港湾施設の効率的な利用を図るため、出島地区において、公共ふ頭計画を追加並びに土地造成及び土地利用計画を変更する。
- (3) 海洋性レクリエーション需要の増大に対応するため、廿日市地区において、小型船だまり計画を変更する。
- (4) 人々に開放された親水性の高い快適な港湾空間の形成を図るため、宇品地区において、港湾環境整備施設計画及び土地造成及び土地利用計画を変更する。

II. 港湾施設の規模及び配置に関する資料

1. ふ頭計画

1-1. 公共ふ頭計画

[宇品地区]

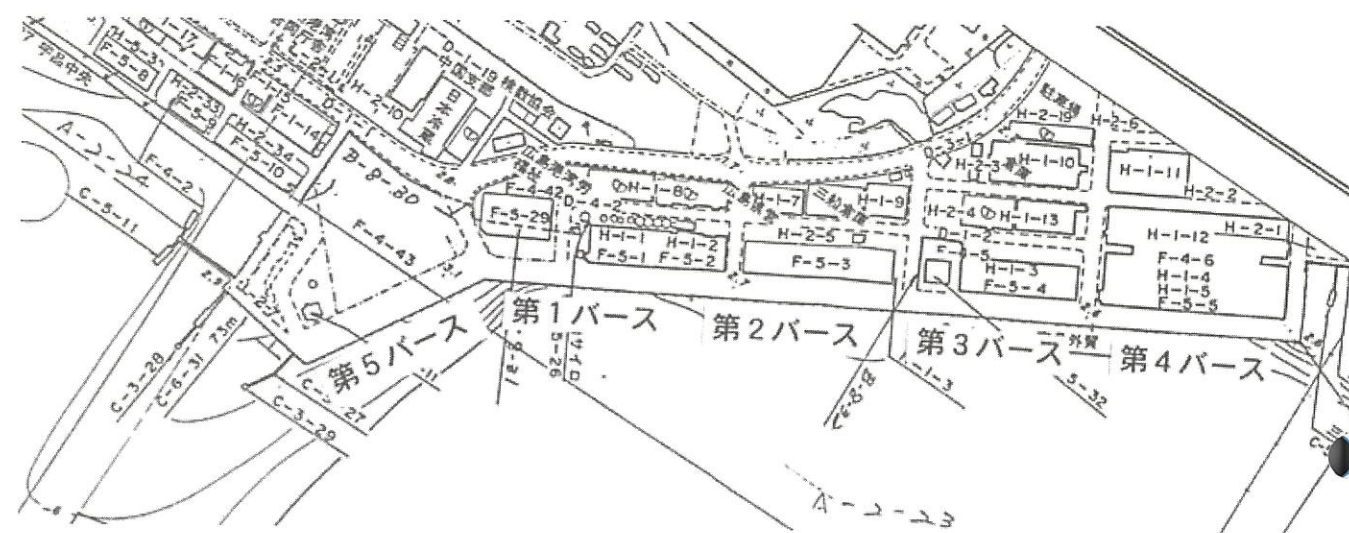
輸送機械等の外貨貨物を取り扱うとともに、大型旅客船の需要に対応するために、公共ふ頭を計画する。

① 公共ふ頭の現況

今回計画に位置付ける宇品外貿ふ頭岸壁第5バースの現況は、次のとおりである。

表II-1-1 公共ふ頭の現況

地区名	係留施設	水深 (m)	延長 (m)	備考
宇品地区	宇品外貿埠頭岸壁 第5バース	-10.0	185	その他 ドルフィン延長 55m



図II-1-1 公共ふ頭の現況

② 公共ふ頭計画の変更の必要性

広島港については、瀬戸内海のグローバルゲートウェイとしての機能強化を図ることが求められており、また不定期旅客船の大型化及び寄港隻数の増加に対応することが急務の課題となっている。

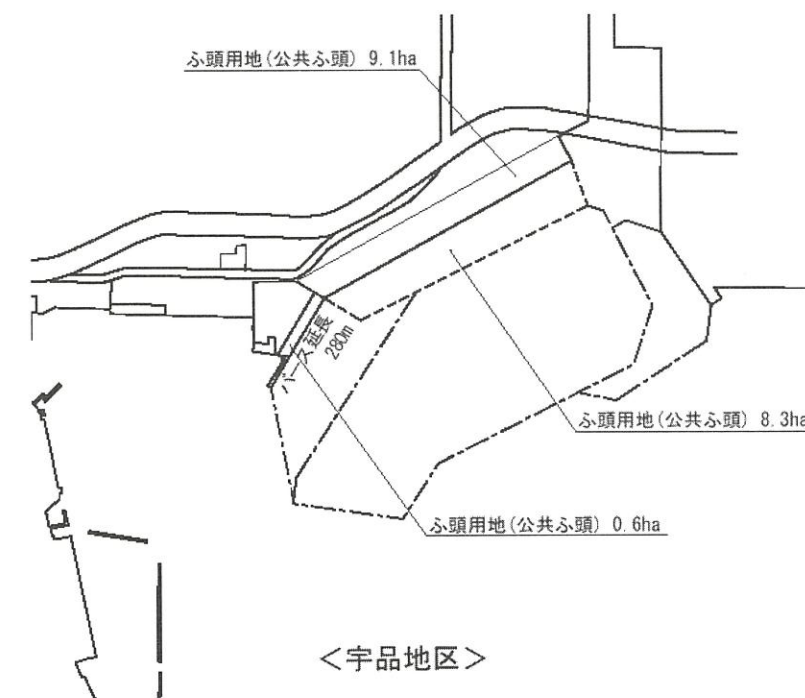
既定計画においては、出島地区旅客船バースに大型旅客船の寄港が計画されていたところである。しかしながら、寄港時期の偏りによる同時寄港や国内旅客船の給油対応など現状の寄港実績を考慮し、出島地区と宇品地区の機能分担を図る必要がある。従って、従来より完成自動車等が取り扱われている宇品外貿ふ頭第5バースについて、公共ふ頭計画を変更する。

③ 公共ふ頭の規模

公共ふ頭の規模の考え方は、次のとおりである。

表II-1-2 公共ふ頭の規模

地区名	延長 (m)	バース数	水深 (m)	ふ頭用 地面積	規模の考え方
宇品 地区	280 (ドルフィンを含む)	1バース	-10.0 (既設)	0.6ha	エプロン幅員については、旅客船乗降客や観光バスの動線に配慮するとともに、完成車等の貨物の荷捌きに配慮し、30mを確保する。



図II-1-2 公共ふ頭の規模

④ 不定期旅客船の寄港実績

表Ⅱ-1-3 不定期旅客船の寄港実績

年度	トン階数	船名	トン数 GT	寄港 回数	全長 (m)	船幅 (m)	喫水 (m)	備考
10	5,000t以上	サウンズ オブ セト	5,167t	1回	96.74		3.80	
	10,000t以上	新さくら丸	17,389t	1回	175.80		7.98	
	20,000t以上	にっぽん丸	21,903t	1回	166.65	24.0	6.50	
		マキシム ゴルキー	24,220t	1回	194.70	26.6	8.00	
		アルバトロス	24,803t	2回	185.39		8.95	
		ばしふいっく びいなす	26,518t	2回	183.40	25.0	6.50	
		飛鳥	28,856t	1回	192.80	24.7	6.60	
	40,000t以上	クリスタル ハーモニー	48,621t	1回	240.96	29.6	7.50	
計 8隻 寄港回数：10回								
11	5,000t以上	サウンズ オブ セト	5,167t	1回	96.74		3.80	H11.10 廃船
	10,000t以上	新さくら丸	17,389t	2回	175.80		7.98	
	20,000t以上	おりえんと びいなす	21,884t	3回	175.00	24.0	6.60	
		ふじ丸	23,340t	1回	167.00	24.0	6.56	
		ばしふいっく びいなす	26,518t	1回	183.40	25.0	6.50	
	飛鳥	28,856t	2回	192.80	24.7	6.60		
計 6隻 寄港回数：10回								
12	5,000t以下	クイーン コーラル8	4,945t	1回	140.81		6.00	
	5,000t以上	クリッパー オデッセイ	5,218t	5回	102.96	15.4	6.80	
	20,000t以上	おりえんと びいなす	21,884t	1回	175.00	24.0	6.60	
		にっぽん丸	21,903t	1回	166.65	24.0	6.50	
		ふじ丸	23,340t	1回	167.00	24.0	6.56	
		ばしふいっく びいなす	26,518t	4回	183.40	25.0	6.50	
60,000t以上	リーガル プリンセス	69,845t	1回	245.10	31.9	8.10		
計 7隻 寄港回数：14回								
13	5,000t以上	クリッパー オデッセイ	5,218t	8回	102.96	15.4	6.80	
	20,000t以上	おりえんと びいなす	21,884t	3回	175.00	24.0	6.60	
		にっぽん丸	21,903t	1回	166.65	24.0	6.50	
		ふじ丸	23,340t	2回	167.00	24.0	6.56	
		マキシム ゴルキー	24,220t	1回	194.70	26.6	8.00	
		ばしふいっく びいなす	26,518t	4回	183.40	25.0	6.50	
60,000t以上	リーガル プリンセス	70,285t	3回	245.10	31.9	8.10		
計 7隻 寄港回数：22回								
14	5,000t以上	クリッパー オデッセイ	5,218t	7回	102.96	15.4	6.80	
		ハンセアティック	8,378t	1回	112.80	18.0	4.80	
	10,000t以上	デルフィン	16,214t	1回	156.20	18.0	6.20	
	20,000t以上	おりえんと びいなす	21,884t	1回	175.00	24.0	6.60	
		にっぽん丸	21,903t	1回	166.65	24.0	6.50	
		ドイチュラント	22,496t	1回	175.00	23.0	5.80	
		ふじ丸	23,340t	3回	167.00	24.0	6.56	
		ばしふいっく びいなす	26,518t	4回	183.40	25.0	6.50	
	40,000t以上	セブンシーズマリナー	48,075t	1回	206.00	28.8	7.00	
		クリスタル ハーモニー	48,621t	2回	240.96	29.6	7.50	
		クリスタル シンフォニー	51,044t	1回	231.01	32.8	7.60	
	60,000t以上	リーガル プリンセス	70,285t	2回	245.10	31.9	8.10	
		オーロラ	76,152t	1回	270.00	32.2	8.40	
計 13隻 寄港回数：26回								

注) 不定期航路, 船舶分類: 客船, レジャー型に限る

⑤ 不定期旅客船の需要想定

- 不定期旅客船の需要想定

既定計画では, 不定期旅客船の寄港需要を次のとおり想定し, 出島地区で対応することと
していた。

表Ⅱ-1-4 不定期旅客船の需要想定

トン数 (GT)	既定計画	
	国際観光船	国内観光船
寄港隻数 (隻/年)	39	48
	87	
稼動日数 (日/年)	174	
乗降客数 (人/年)	39,000	48,000
	87,000	

しかし, 不定期旅客船の寄港実態より以下の状況が想定されるため, 出島地区と宇品地区
の機能分担を図り, 出島地区で72隻/年, 宇品地区で15隻/年の将来需要に対応すること
とする。

- 不定期旅客船同日寄港回数の想定

不定期旅客船の寄港時期には偏りがあり, H14実績で, 年間26隻の寄港中, 3回同日
寄港(うち1回は3隻同時寄港)がみられた。このため, 出島地区1コースでの対応は困難
になると考えられるため, 将来的な同日寄港回数を次のとおり設定し, 宇品地区で対応する
こととする。

将来: 10回/年間87隻寄港中(=87÷26×3)

- 不定期旅客船給油回数の想定

出島地区と比較して, 給油船の係留基地に近接し, 静穏度も高い宇品地区において, 不定
期旅客船の給油に対応することとし, 将来的な給油回数を次のとおり設定する。

将来: 5回/年間87隻寄港中(国内旅客船の1割が給油すると想定)

⑥ 公共ふ頭利用構想図

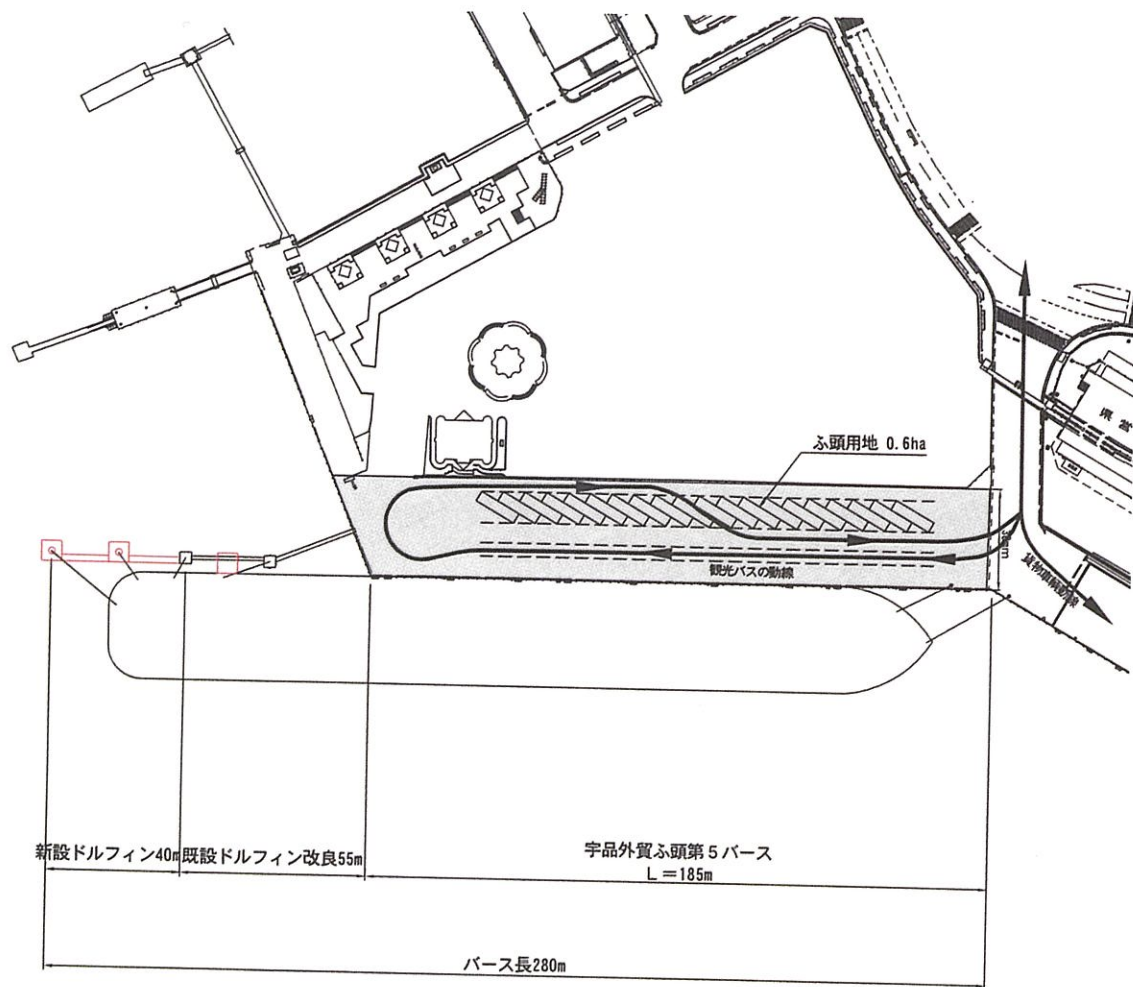


図 II - 1 - 3 公共ふ頭利用構想図

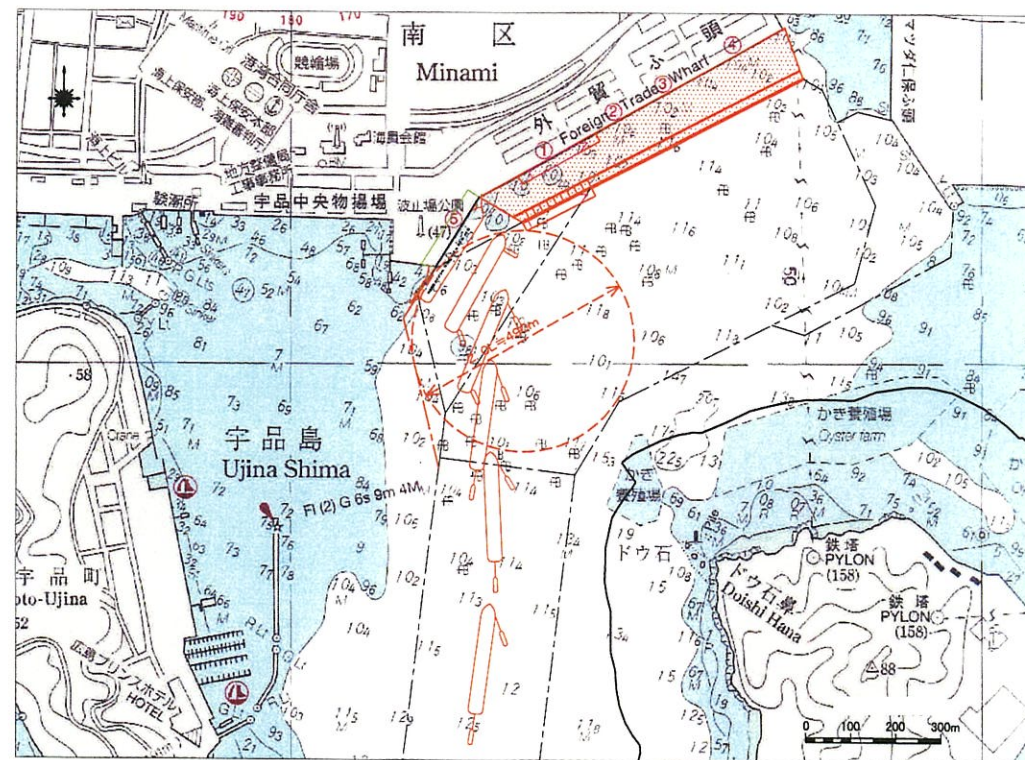


図 II - 1 - 4 操船例図 (入港時)

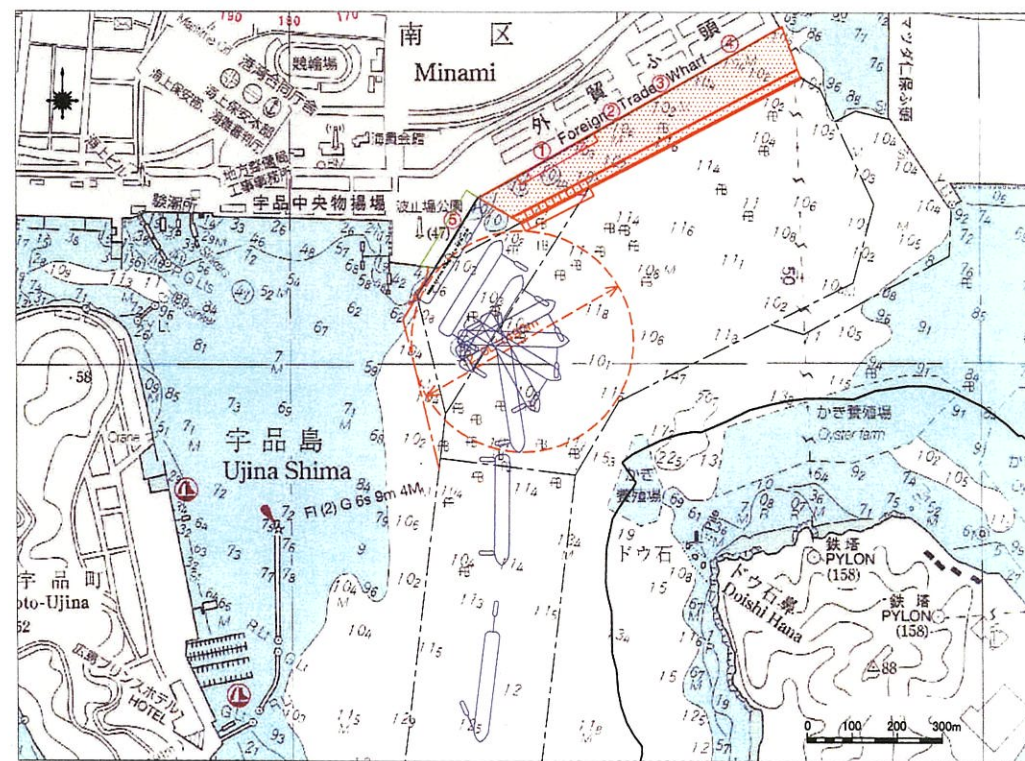


図 II - 1 - 5 操船例図 (出港時)

[出島地区]

砂、砂利、セメント等の内貿貨物を取り扱うため、出島-5.5m 岸壁を専用ふ頭から公共ふ頭に転換する。

① 公共ふ頭の現況

今回計画において位置付ける出島-5.5m 岸壁の現況は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-5 公共ふ頭の現況

地区名	係留施設	水深 (m)	延長 (m)	備考
出島地区	出島-5.5m 岸壁	-5.5	110	

② 公共ふ頭計画の変更の必要性

計画対象地区において、当初特定1社のみ移転を予定していたが、その関連会社も同地区において操業することとなり、出島-5.5m 岸壁において複数社の貨物を取り扱うこととなった。さらに今後は、特定企業以外が隣接する出島-7.5m 岸壁と一体的に利用を図ることも想定し、出島-5.5m 岸壁を専用ふ頭から公共ふ頭へ転換する。

③ 公共ふ頭の規模

公共ふ頭の規模の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-6 公共ふ頭の規模

地区名	延長 (m)	バース数	水深 (m)	ふ頭用 地面積	規模の考え方
出島地区	110	1バース	-5.5 (既設)	0.2ha	エプロン幅員は、15mを確保する。

2. 小型船だまり計画

海洋性レクリエーション需要の増大に対応するため、廿日市小型船だまり計画を変更する。

① プレジャーボートの隻数

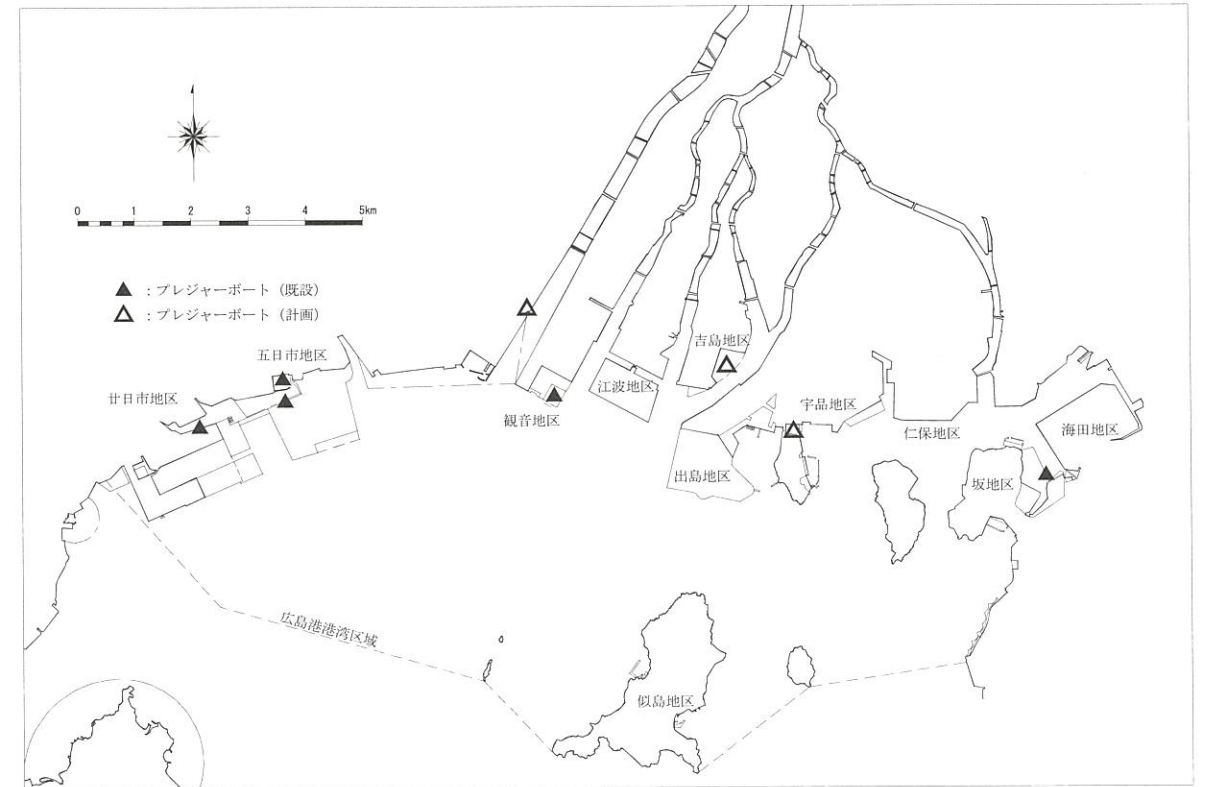
プレジャーボートの目標年次における隻数と考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-2-1 種類別の小型船隻数

種類	地区名	H14 隻数	目標年次隻数		将来隻数の考え方
			既定計画	今回計画	
プレジャーボート	廿日市	570 隻	550 隻	575 隻	現状程度で推移していくものとする。

② 小型船だまり現況図

小型船だまりの現況と位置は、次のとおりである。



図Ⅱ-2-1 小型船だまり現況図

③ 小型船だまり計画の必要性

広島港のプレジャーボート対策においては、暫定係留区域及び重点放置禁止区域の設定により、放置艇を民間施設や公共施設に誘導し、目標年次には放置艇を解消する方針としており、廿日市地区に550隻規模のプレジャーボート施設を位置づけたところである。

しかしながら、平成14年に実施したプレジャーボート実態調査結果によれば、港内全体のプレジャーボート隻数は概ね既定計画時に予測した伸び率で推移しているものの、当該地区においては収容隻数を上回る増加を示しており、これに対応するため、小型船だまりを計画する必要がある。

④ 地区別の必要係留施設延長

地区別のプレジャーボート将来隻数の考え方と必要な施設延長は、次のとおりである。

表Ⅱ-2-2 地区別の将来隻数の考え方と必要係留施設延長

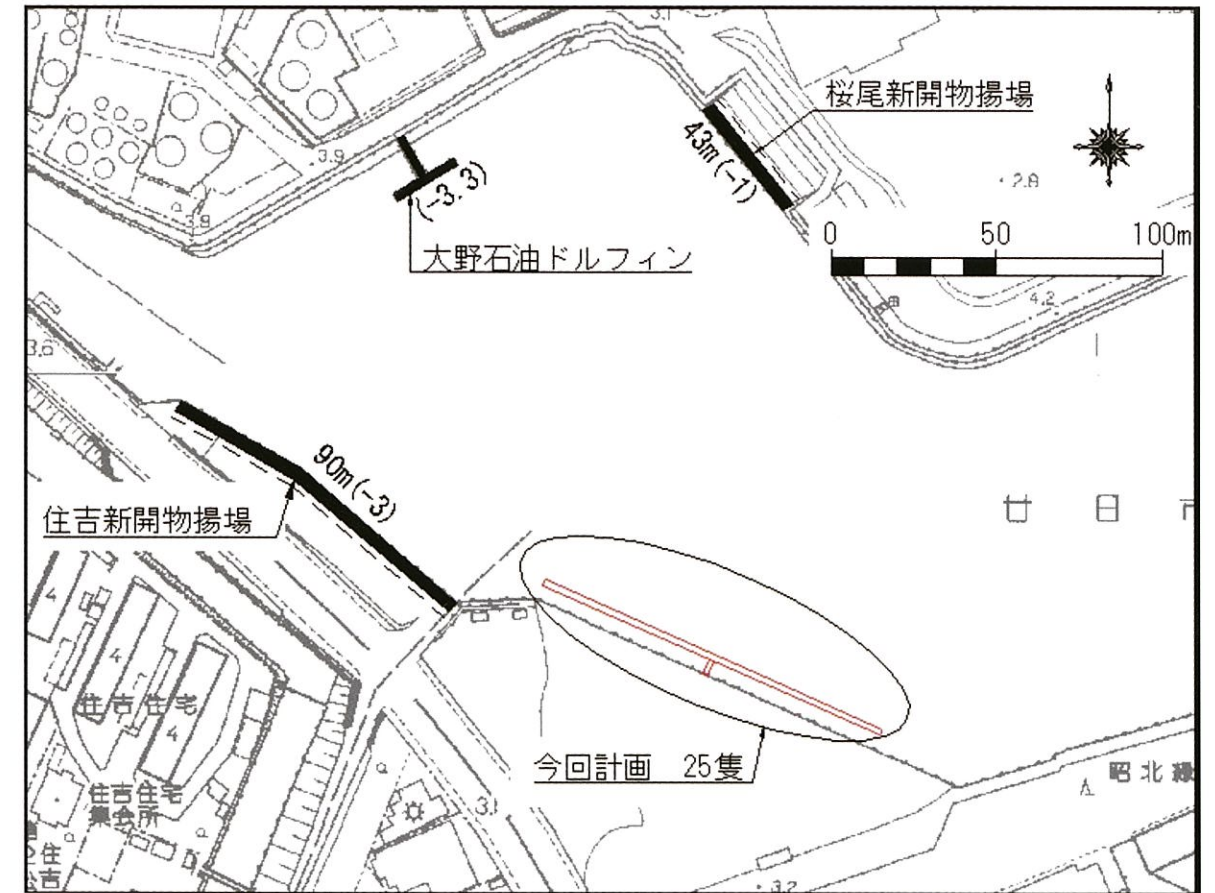
地区名	目標年次 隻数 (隻)	係留施設 必要延長 (m)	係留施設 既存延長 (m)	計画 必要延長 (m)	地区別の将来隻数 の考え方	摘要
廿日市 地区	575隻	2,405	2,295	110	重点放置禁止区域の設定により、現状程度で推移していくものとする。	

⑤ 小型船だまりの施設の規模及び配置

小型船だまりの施設の規模及び配置とその考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-2-3 小型船だまりの施設の規模及び配置

地区名	施設名	船舶種類	隻数	施設規模	施設の規模及び配置の考え方
廿日市 地区	廿日市 ボートパーク	プレジャーボート	575隻	係留施設 小型さん橋 20基 (うち19基既設)	対象隻数の増大に伴い、小型さん橋の配置及び基数を変更する。



図Ⅱ-2-2 小型船だまり計画図

III. 港湾の環境の整備及び保全に関する資料

1. 港湾環境整備施設計画

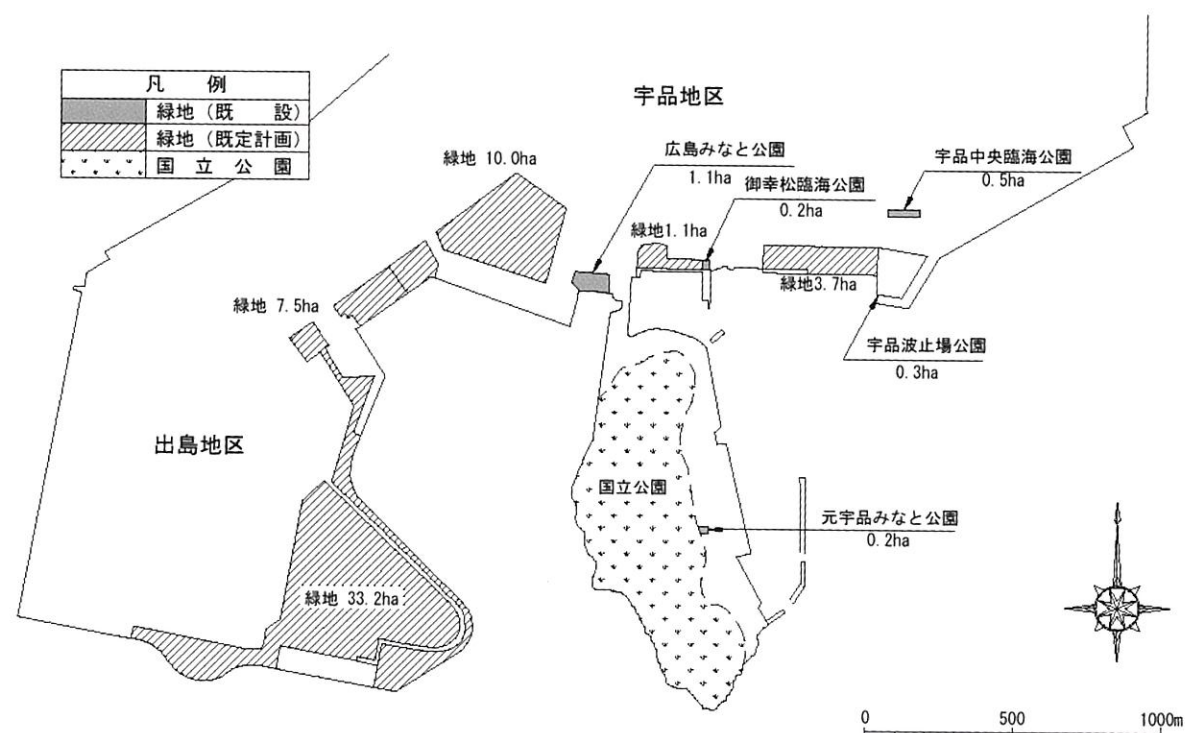
1-1. 緑地計画

① 緑地の現況

今回計画地点周辺の主要な緑地の現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-1-1 緑地の現況

地区名	名称	緑地面積 (ha)	状況	主要な用途	管理主体	備考
宇品地区	宇品中央臨海公園	0.5	既設	修景緑地	港湾管理者	
	御幸松臨海公園	0.2	既設	修景緑地	港湾管理者	
	広島みなと公園	1.1	既設	緩衝・修景緑地	港湾管理者	
	宇品波止場公園	0.3	既設	休息緑地	港湾管理者	
	元宇品みなと公園	0.2	既設	休息緑地	港湾管理者	
	内港地区①	10.0	既定計画	シンボル緑地 防災緑地	港湾管理者	
	内港地区②	7.5	既定計画	親水緑地	港湾管理者	
	宇品中央地区①	1.1	既定計画	親水緑地	港湾管理者	
	宇品中央地区②	3.7	既定計画	親水緑地	港湾管理者	
	地区計	24.6				



図Ⅲ-1-1 緑地の現況

② 緑地計画の必要性

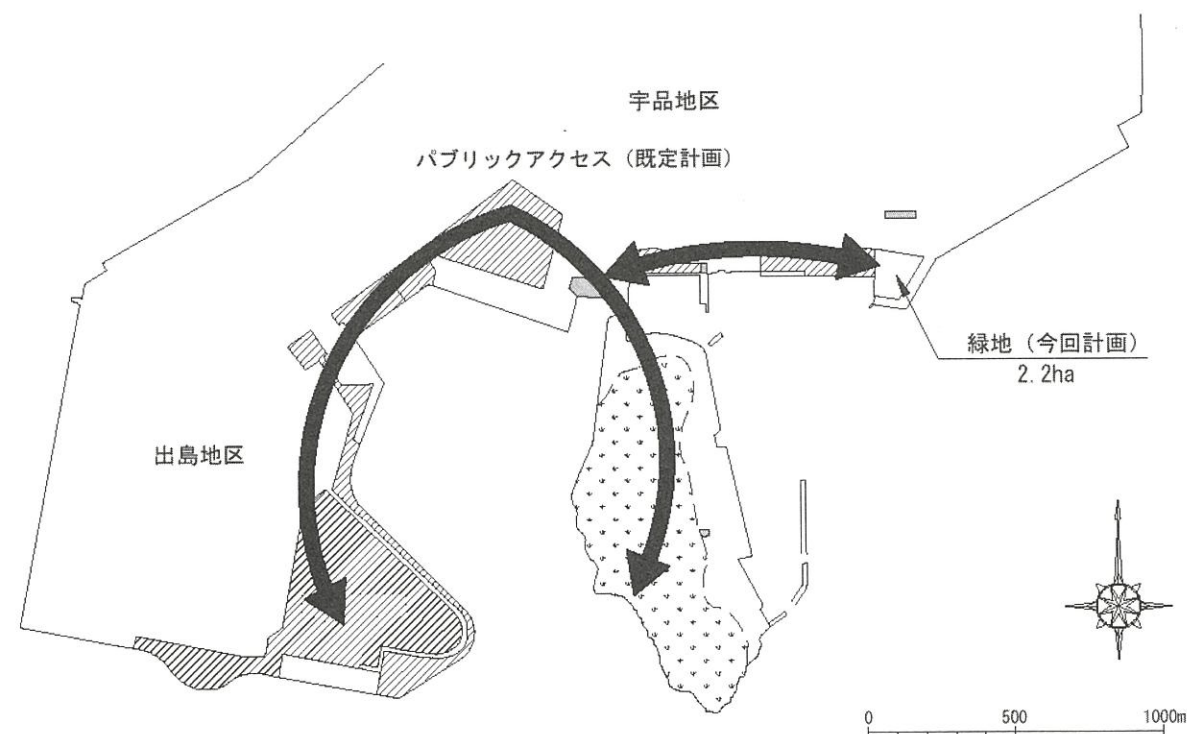
人々に開放された親水性の高い快適な港湾空間の形成を図るとともに、大型の国際旅客船の寄航に併せて開催されるイベント時において、広場、駐車場、サービス施設等を備えた賑わい空間の確保が求められているため、宇品外貿ふ頭に近接した宇品地区に緑地を新たに計画する。

③ 新規に計画する緑地の規模及び配置

緑地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

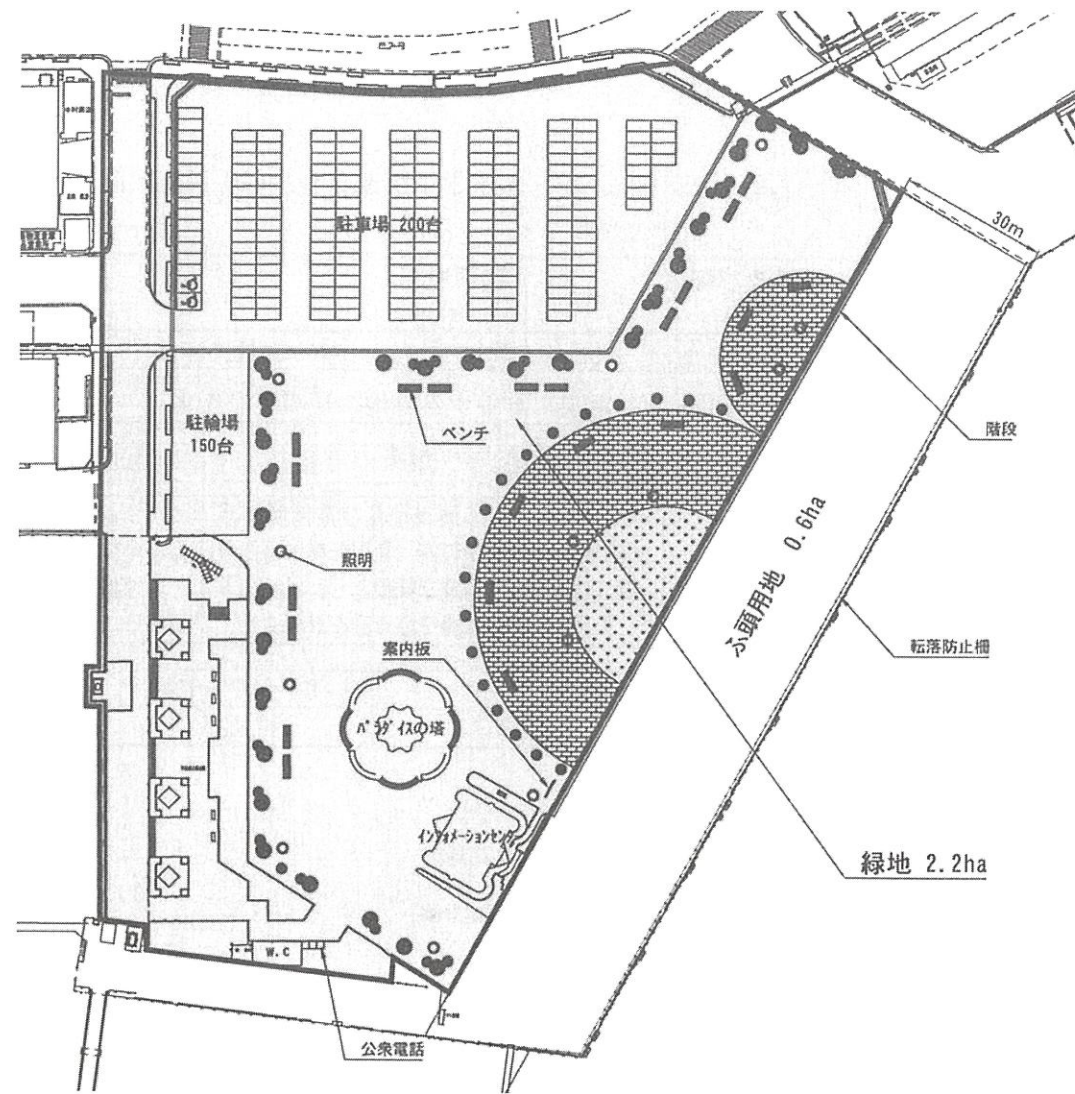
表Ⅲ-1-2 新規に計画する緑地の規模及び配置

地区名	名称	緑地面積 (ha)	主要な用途	規模の考え方	配置の考え方
宇品地区	宇品外貿	2.2	親水緑地 休息緑地	ふ頭用地及び港湾関連用地の内、利用転換が可能な用地を緑地とし、イベント広場や駐車場を計画する。	パブリックアクセスの確保を主体に、周辺緑地等との連携を図りながら計画する。



図Ⅲ-1-2 緑地計画位置図

④ 新規緑地構想図



図Ⅲ-1-3 新規緑地構想図

IV. 土地造成及び土地利用計画に関する資料

1. 土地造成に係らない土地利用計画

① 土地利用の区分の変更

効率的な土地利用を図るため、土地造成及び土地利用計画について表のとおり計画する。

表Ⅳ-1-1 土地造成及び土地利用計画 (単位: ha)

用途 地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	交流拠点 用地	工業用地	都市機能 用地	交通機能 用地	緑地	レクリエーション 施設用地	合計
宇品地区	(8.3) 28.9	14.5		21.6	16.8	21.6	26.5	2.8	(8.3) 132.7
出島地区	43.0	7.0	50.6	11.3		10.8	33.2		155.8

注1 ()内は土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

注2 端数処理のため、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

既定計画

(単位: ha)

用途 地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	交流拠点 用地	工業用地	都市機能 用地	交通機能 用地	緑地	レクリエーション 施設用地	合計
宇品地区	(8.3) 30.4	14.9		21.6	16.8	21.6	24.6	2.8	(8.3) 132.7
出島地区	42.8	7.4	50.6	11.0		10.8	33.2		155.8

注1 ()内は土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

注2 端数処理のため、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

V. その他の資料

1. 資金計画

表V-1-1 資金計画

地区名	種別	施設区分	施設名	数量	事業費 百万円
宇品	公共	係留施設	岸壁 (-10)	280m	210
		港湾環境整備施設	緑地	2.2ha	88
合計					298
廿日市	公共	係留施設	小型栈橋 (-2)	1基	80
		合計			
公共事業計					378
起債事業計					0
総計					378

2. 環境保全に関する検討

(1) 大気質

今回計画では、新たに発生する大気汚染負荷が少なく、大気質への影響は軽微であると考えられる。

(2) 潮流

今回計画による地形の変化は少なく、潮流への影響は軽微であると考えられる。

(3) 水質

今回計画では、新たに発生する水質汚染負荷源が特になくことから、水質への影響は軽微であると考えられる。

(4) 底質

今回計画による地形の変化は少なく、潮流、水質への影響が軽微なことから、底質への影響も軽微であると考えられる。

(5) 騒音・振動

今回計画により新たに発生する交通量は少なく、騒音・振動による影響は軽微であると考えられる。

(6) 悪臭

今回計画では、新たに悪臭発生源が特になくことから、悪臭による影響は軽微であると考えられる。

(7) 生態系

今回計画による地形の変化は少なく、大気質、潮流、水質及び底質への影響が軽微なことから、生態系への影響は軽微であると考えられる。

(8) 漁業への影響と評価

潮流、水質及び底質への影響が軽微であることから、周辺漁業に与える影響は軽微であると考えられる。

以上のことにより、今回計画による環境への影響は軽微であると考えられる。

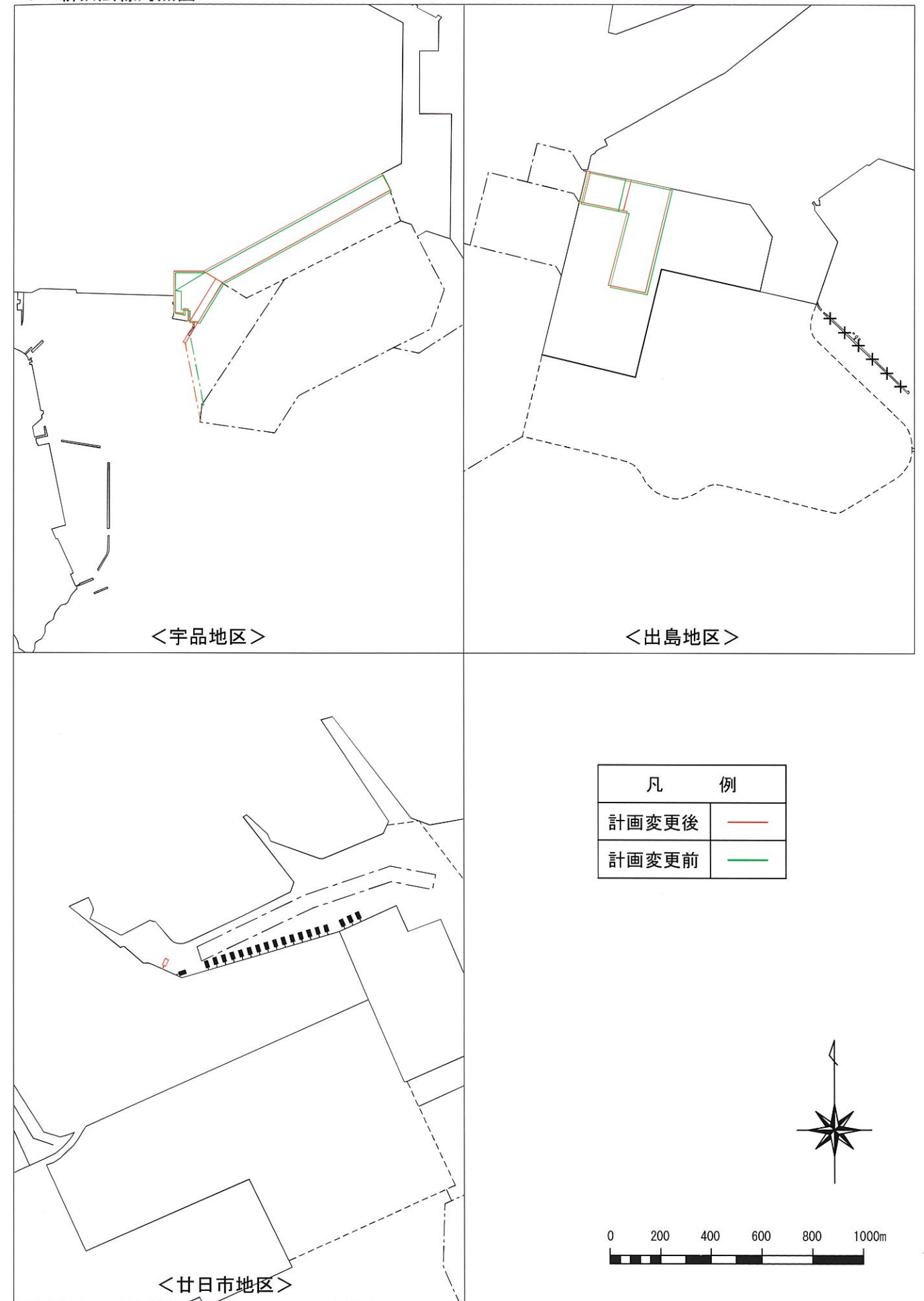
3. 地方港湾審議会名簿

広島県広島港地方港湾審議会委員名簿

(平成16年3月1日現在) (敬称略順不同)

区分	氏名	所属
学識経験者	杉 惠 頼 寧	広島大学大学院教授
	佐 藤 恭 子	エリザベト音楽大学教授
	若 井 具 宜	広島県立大学経営学部教授
	日比野 忠 史	広島大学大学院助教授
港湾関係者	村 岡 健 二	広島市漁業協同組合組合長
	古 川 浩 司	広島県倉庫協会会長
	真 田 信 昭	広島地区港運協会会長
	埴 野 廣 文	広島県内航海運組合理事長
	仁 田 一 郎	広島県旅客船協会会長
	中 本 横 夫	全日本海員組合中四国地方支部長
県議会議員	山 田 利 明	広島県議会議員
	窪 田 泰 三	〃
	中 本 隆 志	〃
市議会議員	浅 尾 宰 正	広島市議会議員 (議長)
	月 村 俊 雄	〃 (副議長)
	酒 入 忠 昭	〃 (建設委員長)
国の関係行政機関の職員	梶 山 直 己	中国財務局長
	田 中 保 男	広島税関支署長
	内 田 晃 亘	広島検疫所長
	泉 卓 夫	神戸植物防疫所広島支所長
	大 口 清 一	中国運輸局長
	清 水 尊 志	広島海上保安部長 (広島港長)
	小 林 正 典	中国地方整備局長
県職員	田 口 尚 文	副 知 事
	佐 藤 孝 夫	土木建築部空港港湾局長
市町職員	山 田 康	広島市助役
	松 井 正 治	広島市都市整備局長
	山 下 三 郎	廿 日 市 市 長
	山 岡 寛 次	海 田 町 長
	吉 田 隆 行	坂 町 長

4. 新旧法線対照図



新旧法線対照図【宇品地区, 出島地区, 廿日市地区】